

白秋の愛した湖西

遠つあふみ浜名のみ湖冬ちかし真鴨翔れり北の昏きに



水は浜名湖

浜名は鷺津

勇め夜明けの

トン／＼初角目

鱸は好きだし

鱈は飛ぶが

ギョ／＼おいでよ

簀の上も

ハラハツト

ヨウイヤサ

白秋と湖西民謡保存会

白秋作詞の「鷺津節」が有名になったのは、白秋の歌詞が優れているのと作曲の妙味、振り付けのよさも大いに寄与していたが、昭和8(1933)年全国発表大会で佐渡おけさと同時優勝という華々しい成績を取めたことにもよる。



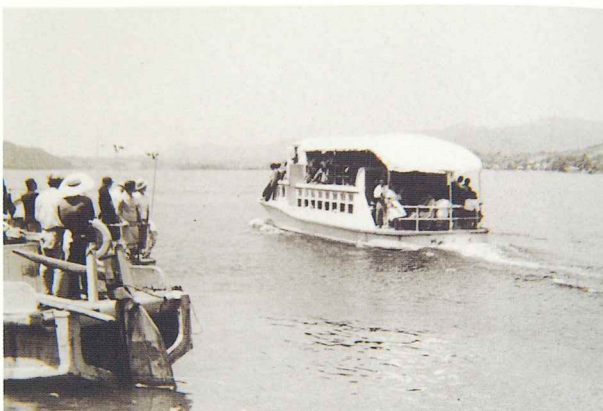
全国民謡大会出場に向けて、鷺津節の総練習 昭和8年7月 (湖西民謡保存会所蔵)

当時、衣装の奇抜さと海上で踊るといふ珍しい振り付けで、地元では「水上おどり」として親しまれていた。しかし、その後全国的なPRを展開し、有名になった佐渡おけさと対照的に、鷺津節は50年近く注目されることはなかった。

鷺津節の復活のきっかけになったのが、湖西民謡保存会という保存団体が誕生したことによる。

令和4(2022)年は、鷺津節の歌詞誕生から90年の年に当たり、湖西民謡保存会は40周年を迎えた。発足当初、約150人いた会員は、現在15名ほどになったが、白秋が作詞した鷺津節を始め、浜名湖セレナアデ、鷺津新曲と湖西民謡三曲を中心に白秋民謡の継承に努めている。

小中学生の指導を通して将来に繋げる活動や鷺津節の広報活動を続け、同じ白秋作の民謡や他の民謡保存の団体等との交流を積極的に行い、活発な保存活動を続けている。



巡航船がゆく—白秋が好んだ浜名湖の情景

白秋と浜名湖西岸

白秋は河井家旅館滞在中、本興寺のほか浜名湖周辺や、白須賀、潮見坂、新居などを訪れて詩歌を作った。白須賀では、江戸時代の宿場の風情が残る特徴的な風景を詩や短歌にしている。

浜名

浜名湖セレナアデ

北原白秋作詞
町田嘉章作曲
西川鶴吉振付

なにを今切^{いまきれ} 浜名の橋よ 海は切れても 中絶えぬ／＼
長いドライブ 浜名の橋も わたしや鷺津へ ひとすぢにく／＼
うかとかかかった 新居の関所 緑は今切^{いまきれ} 湖の端／＼
こころ舞阪 弁天嶋ぬけて ままよ大黒 夏まつり／＼
浜名よく見ろ 鷺津はここだ しらい燕も トン／＼出てはしる
向う大崎 時雨れよとままよ なまじ日和は 目がかすむ／＼
たとひ沈まうと いとしの鐘よ 見せておくれよ 湖の底／＼
本所 天神松 真下は湖よ 浜名 名どころ すぐ一と目／＼

鷺津新曲

(昭和7年11月14日)

煙立つ^{けぶり}

空は鷺津の水あさぎ

名も浜名湖の満潮と

寄するさざなみ 沖つ波

勇む角目の網かけて^{かくめ}

船の出入も とんとと おもしろや

とんとと おもしろや

『浜名巡航』

遠つあふみ浜名のみ湖冬ちかし真鴨翔れり北の昏きに

『本興寺林泉』

所望されて、一首

水の音ただにひとつぞきこえけるそのほかは何も申すことなし

林泉を、また

水の音聴きつつをればこの林泉に満つるこほろぎの声もしづけき

『続本興寺林泉』

水の音ただにひとつぞきこえけるふたたび籠りみ冬にぞ聴く

